



森ボラ 通信

第230号 2021年7月20日発行
NPO法人 **北海道森林ボランティア協会**
URL <https://www.shinrin-npo.info/>
札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8ラルズ生活研究センター
TEL (fax): (011) 816-7010
E-mail: hshinrin2002@nifty.com

■ 活動報告



◆ 第2回親子森林教室 活動報告

木の種を播き、森を歩き、植菌を体験する！

6月27日、今年度第2回目の親子森林教室が開催されました。当初はこれより2週間前の6月14日に予定されていたのですが、5月に入り札幌市のコロナ感染が急増し緊急事態宣言が発令された為に延期していたものです。勢い「実施の場合はこれまで以上に感染対策を徹底する」ことが求められ、又、前回の第1回目が天候不順の為に消化できず繰越になった活動もあり、「ボリュームの増えた活動を、感染対策を徹底した中でどうスムーズに消化するか」が課題にもなりました。このため、椅子テーブルを増設し、大きく2グループに分けて行動するなどの工夫をしました。

当日は穏やかで虫もあまり出ておらず、森林の中で活動するには爽やかな天気となりました。隊員21名（4名欠席）、保護者等24名の参加で、協会員が17名で合計62名、広場が狭く感じる程でした。今日の活動スケジュール、注意事項、班編成の説明があり、ラジオ体操の後、2グループに分かれて活動を開始しました。活動は大きく分けて3事項です。



たくさんのヘルメットが並ぶ会場風景

A 播種に関するもの 樫棒さんより植物の生成循環と如何にして子孫を増やすかの説明があった後に、駐車場脇のエゾヤマザクラから種を採取しました。次に苗畑に戻って、予め用意したエゾヤマザクラとハルニレの種をポットに播きました。ポットには播種月日・種の種類・隊員名を書いたプレートを差して苗畑に並べました。発芽が楽しみです。

B 五感で森歩きとマイリーフの葉っぱ取り

クマゲラの食害で倒れたヤマナラシ、林内の代表的樹木ミズナラの説明を聴き、次は木に聴診器をあて木の音を聴く。隊員、保護者、私もトライ。しかし残念ながら何も聞えず。何か聞えたような気がするとしたのは隊員2人だけ。次はエゾサシユウウチの観察。合田さんよりエゾサシユウウチとエゾアカゲルのオタマジャクシの違いを写真で説明を受けた後、皆で網を入れる。小さい水溜りに多くの網が入りエゾサシユウウチも驚いたことだろう。たくさんのオタマジャクシが掬えたが観察後は沼に放免。次は上流橋で橋に腰を下ろして酒井さんより樹木の葉の話聴く。葉の裏と表の見た目と感触の違い、樹木が二酸化炭素と酸素の循環に如何に貢献しているか等々。最後は樹木園でマイリーフの採取。西野さんが樹木園の役割とマイリーフの選び方を説明し、採った葉は新聞紙に挿み押し葉にして持帰り。

午前の盛り沢山な2項目を消化しお腹を空かせ広場に戻り昼食へ。木の音を聴く活動について酒井さんより追加の説明。木の幹の中にある管を水が通る音が聞こえるのかということそれは無いとのこと。自分の心臓の音、木が風に騒ぐ音等が聞こえる(気分)こともあるとのこと、聴こうとする人の想いで聞えてくる音が有るのでしょう!?

昼食休憩の後は**Cキノコの植菌** 荒松さんの説明 キノコの役割 森の掃除屋さんで落ち葉、枯れ木等を分解し植物・動物の新たな栄養素に還元し生態系を循環させる大事な役割を果たしている。今回の植菌はシイタケをミズナラに、ナメコをシラカンバカイタヤカエデの原木に隊員各1本ずつ。隊員が電動ドリルで穴あけ、コマ叩き、保護者は木の抑え、コマ差込等の補助。全体で約50本の植菌ホダ木ができ仮伏せ。ホダ木の木口にはキノコ名、隊員名を書いた。来年秋にはキノコが出るとのこと。

こうして3つの項目を全て完了し、隊員は盛沢山の内容で頑張り、時間も予定をオーバーし、いささか疲れも出ていましたが、最後の纏めとして各班のリーダーに感想を聞きました。「電動ドリルでの穴あけが一番面白かった」という声が多数でした。参加した隊員、保護者の方、協会の方、長時間お疲れ様でした。(文・高橋)

◆ 第3回親子森林教室 活動報告

下草刈りし、木で工作し、ホタルを観察!

7月11日、第3回親子森林教室が開催されました。今回は午後2時からのスタートで終了が午後8時と言う特殊なスケジュールです。隊員は21名、保護者等25名、特別講師1名、協会員17名、合計64名の参加者でした。

朝礼・ラジオ体操後に活動開始。まず茂った夏草の下草刈り体験ですが、その前に榎棒さんより木を育てる各種作業について鎌などの人力の道具からエンジン付きのチェーンソーまでの道具を紹介しながらの説明。そして、駐車場の向かい側に設定した下草刈り場に移動し、榎棒さんが何故下草刈りが必要かと隊員に質問。挙手した隊員より、「他の草に栄養を奪われ無いように」「日光を受けるのに他の草に邪魔されないように」との答えがあり、榎棒さんより「風通しを良くする」が加えられました。隊員は5箇所に分かれて作業開始。班長が手鎌の使い方を示して作業開始。高学年の隊員はすぐに手鎌の刈り方に慣れましたが、低学年は矢張り大変のようで、保護者もじっとしていられず作業に参加し、綺麗に刈られた面積が広がっていきます。途中、給水を促さねばと感じる程に熱中。予定時間前にほぼ予定区域を完了し散髪を終えたような達成感を味わいました。これが肉体労働の良いところです。

広場に戻り休憩後、森の木枝、葉、木の実を使った工作(親子協働作業)に掛かりました。工作は3グループに分かれ、継続隊員の4~6年生6人は「巣箱作り」を3人1組でそれぞれ1個ずつ作り、新規隊員の4~6年生11名は「ドングリそろばん作り」を、1~2年生5人は「クラフト作り」を楽しみました。



播種体験：IV ヤマナラのオタマジャクシを取る



手鎌を使って下草刈りの体験



ドングリそろばん作りに挑戦

私の担当はドングリそろばん作りの補助。各隊員に材料セットが渡されます。杵木に竹串を差し立て、ドングリを通し、杵組みを最後にネジで固定して完了と話では簡単ですが、しかしやってみると材料が自然物で、大きさ、太さがまちまちで、杵木も真っ直ぐとは限らず、竹串は初めから長さの調整を前提とした長いもので、組み立て、固定の段階で切りながら長さを調整しなければなりません。この調整に悪戦苦闘。何度もやり直し。最後のネジでの固定ではネジの長さが不足し長いものに変更、

やっと終わって隊員は作品を持って保護者と記念撮影。

午後5時頃にそれぞれの工作が終了し腹は空くし疲れもあるところですが夕食に移る前に広場に集まり今日のおさらいをし、感想を聞く“まとめ”をしました。3つの工作グループ毎に前に出て、自分の作品を提示し感想を述べ合いました。クラフト作りは作るものが各自自由なので車・動物等様々、保護者の指導・協力もあったのか中々見応えがありました。ドングリそろばんグループは簡単だったとの感想が多く私には意外でした。巣箱作りは中々大変で完成までには至らず、秋までに完成させ森の木に掛けることに。この後、夕食・休憩、食後には冷えたスイカが振る舞われました。

午後6時半より、招聘した動物写真家の中島宏章さんのコウモリの生態についての話を、スライドを観ながら聴きました。鳥・モモンガ・ネズミ・馬が写され、この中で一番コウモリと近い親戚はどれかとの質問では何と正解は馬。ほとんどの隊員がモモンガと答えましたが、一人が正解を出したのには驚きました。中島さんから隊員へお土産としてコウモリを写した葉書を頂きました。面白い話に加えプレゼントまで、中島さんありがとうございました。



中島宏章氏のコウモリの話聴く

いよいよホタル観察へ、とその前に「ホタルの一生」についてスライドを使い佐野さんが説明。ホタルは全国的に減少しており大事に保護観察すること。当地は平家ホタルであることなどの丁寧な説明がありました。観察場所のキャノ橋までは5班に分かれ移動。隊員は中島さんが用意したコウモリ探知器（コウモリが発する超音波を感知するもの）を携え、暗くなった森の中を肅々と進みます。しかし、キャノ橋に到着するもホタルの光は見えず、未だ時間的に早いのか、それともシーズンが終わってしまったのか、はたまた当地のホタルは絶滅（昨年は10匹確認）したのか等とヤキモキ。20分ほど水際や空中に目を凝らすが見えず、既に真っ暗になり確認を諦め戻ろうと移動を始めたところ、やっと1匹の光を確認。その後、数匹の光を確認できました。一応今年の確認数は6匹ということに。粘ったお陰で最後にホタルも我々を憐れんで「ちょっとだけよ…」と出てきてくれたようです。次回は熱烈歓迎でお願いします。

ホタル観察の時間オーバーで終了時間が8時を大きく超え、盛り沢山な一日も無事終了しました。参加者の皆様お疲れ様でした。（文・高橋）

■ 澄川の自然 23

ギンリョウソウ〈銀竜草〉（ツツジ科）

中流橋へ向かう右土手に毎年姿を見せます。山林の少し湿っぽい所にひっそりと花を咲かせ、ちょっと見るとユーレイの様です。

葉緑素を持たないので自分で栄養を作る事が出来ず、腐った落葉から養分を取り入れる腐生植物です。

全体がろう細工の様な透明感のある白色で、花は横向きに1個付きます。（文・西野(澄)/写真・三橋）



(参考文献：新北海道の花・おもしろい草花の話)

■ 今月の幹事会

出席者(7月7日):大窪・荻田・樫棒・加藤・清澤・佐野・三橋・矢澤・矢野・松藤・西野(澄)

1. 2021年8月、9月スケジュール(8月幹事会8月10日(火))
2. 7月以降のコロナ感染状況を踏まえた対応:徐々に通常活動に戻す予定。
3. 2021年6月会計報告:一部費目移動。
4. 第2回親子森林教室の報告、第3回活動スケジュールについて:いずれも了承。
5. 森林・山林多面交付金事業6月の活動報告:了承
6. 支笏湖活動について:コロナ感染、ワクチン接種状況を考慮して9月は日帰り、10月は宿泊を準備。
7. モノタロウ(法人契約)での購入ルール:低廉かつ事務処理負担の軽減から推進。
8. 現場報告
 - ・6/7 澄川 春の清掃活動:一般ごみ1トン、タイヤ等多数。ご苦労様でした。
 - ・6/10 澄川南小校外授業、6/24 有明活動、6/29 野幌活動:いずれも了承。
9. 現場対応
 - ・7/14 野幌国有林:生長調査。道有林:草刈り、倒木処理。
 - ・7/19 右精進川水質調査(北大院生高柳さん指導):下流橋、キャリコ橋で調査予定。
 - ・7/19 澄川南小4年生マイツリー選木他(北地区)
 - ・7/27 刈払い機安全講習。 7/31 有明活動:笹刈り、階段補修、生長調査を予定。
10. その他
 - ・20周年記念事業委員会報告:記念誌、記念品、記念植樹、実演会などを計画。
 - ・支笏湖宿泊先の検討:7/15 現地調査実施。 ・助成申請状況:今年度は未受理。
 - ・ガソリンカードの導入、軽トラ車庫証明、物品購入:いずれも了承。

■ 活動履歴

| 月日 | 行事・活動地 | 参加人数 | 活動内容 |
|----------|-------------|------|------------------------|
| 6月16日(水) | 支笏湖(ぶんぶんの森) | - | コロナ対策により活動中止 |
| 6月18日(金) | 澄川 | 23 | 北地区笹刈り、D-2区集材、親子森林教室開催 |
| 6月19日(土) | ラルズ生活研究センター | 6 | 20周年記念事業打合せ |
| 6月22日(火) | 支笏湖(コンサの森) | - | コロナ対策により活動中止 |
| 6月24日(木) | 有明 | 14 | 植樹、下草刈り、食害防止網補修他 |
| 6月26日(金) | 澄川 | - | コロナ対策により活動中止 |
| 6月27日(日) | 澄川 | 17 | 第二回親子森林教室 |
| 6月29日(火) | 野幌道有林 | 18 | 防草シート布設、下草刈り、移植樹マキング |
| 7月1日(木) | 澄川 | 15 | 北地区整備、D-2区集材、作業道草刈り |
| 7月3日(土) | 北海道開拓の村 | - | コロナ対策により活動中止 |
| 7月5日(月) | 支笏湖(烏柵舞の森) | - | コロナ対策により活動中止 |
| 7月7日(水) | ラルズ生活研究センター | 11 | 幹事会 |
| 7月8日(木) | 澄川 | 20 | マキ作り、チップ作業、親子森林教室準備 |
| 7月11日(日) | 澄川 | 17 | 第三回親子森林教室 |
| 7月14日(水) | 野幌(国有林、道有林) | 12 | 国:生長調査、道:下草刈り、移植稚樹確認 |
| 7月16日(金) | 西野第二 | - | コロナ対策により活動中止 |